

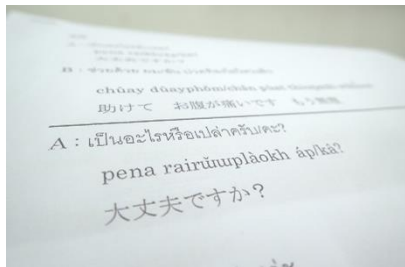


シーナカリンウィロート大学 人文学部

タイ王国バンコクに本部を置く1949年創立の国立大学。シリントーン王女も学んだ由緒ある総合大学。

都心に立地するため交通の便がよく、また多くの日本人が住む治安のいい地域にある。

人文学部には、心理学・図書館情報学・宗教哲学・西洋語・タイと東洋語・言語学の6つの学科がある。



... 留学した先輩達の体験談から ...

学校生活①（授業について）

- 1コマにつき3時間！宿題の量も相応にあるのでこなすのが大変。
- 先輩たちは主に英語の講義を受講。
- ディスカッションやプレゼンテーションが多く、英語で話す機会が多い。
- タイ語習得のために、語学学校に通う学生さんもあれば、プライベートレッスンを受ける学生さんもあり。サークルに入るとタイ語に揉まれる！という手も。

日常生活

- 学部間協定校留学ということもあり、現地には明治大学に留学していた学生さんもいるのでサポートをしてもらえることも。
- 契約関係はほとんどタイ語。タイ語と日本語を話せるタイ人と一緒に契約するか、留学先の国際課のスタッフに同行してもらった方が○。

学校生活②（学風・学生について）

- 学生は社会的で親切。みんな1年生のときに寮生活を経験しているためか、学生同士がとても親密。
- タイ全土から多くの人々が訪れ、多様性溢れる校風。
- 勉強量は非常に多いが、学生はONとOFFの切り替えができています。
- 学生は穏やかでフレンドリーなので、直ぐに友達ができます。

アドバイス！ ■日本のことをもっと知っておくべき。国内の旅行をしたり、ボランティア活動をしたりと、外国人からどんな質問が来ても答えられるようにしておいたほうがよい。■話す英語と書く英語の能力は全く別物。スピーキング能力を見るテストも受けたほうが良いと思う。■現地用語を勉強し、現地の地理的、歴史的知識を得ること。現地のことについても、どう思うかと聞かれることも多くある。■タイ語の能力、特に長い文章の読み書き能力を留学前にできるだけ向上させておくべき。■英語を学ぶことに重点を置いていたが、後に現地文化を学ぶためにはタイ語の習得が必須だということを痛感。

どうしてここを選んだの？

- 親日家が多く、長期間で留学行くなら発展途上の只中にある国にチャレンジしてみたいという単純な動機だった。
- 情コミの短期プログラムを通して一度この大学に短期留学をして、大学の雰囲気やすでに知っていたことが大きい。
- 学生の意識の高さが留学先の決め手。皆が自分の将来のために漠然とではなく勉強してる姿に感銘を受けた。
- バンコクを中心にあり、タイの先進の雰囲気を肌で感じられることがたいへん魅力的に思えたから。
- 日本の企業が多く進出しており、日本との繋がりを学べるかと思った。

留学を考えている人へ

タイは暮らしやすく、笑顔で話しかければ友達になってくれるので、友達作りにはほとんど苦労しませんでした。同じアジア人だという安心感があるので、現地での交友関係を心配する必要は全くありません。タイではやりたいことが制限されずに何でもできるので、タイに行く理由を見つけてください。志が高い人ほど貴重な体験ができる場所だと思います。もしタイ留学を考えているけど、留学する目的が曖昧だという人がいれば、自分の好きなこととタイを結び付けて考えるといいかもしれません。まずはその二つの共通点を見つけましょう（自分はスポーツ×タイ＝国際協力でした）。そしてそれがタイで学べることであるなら、留学はその手段として最適だと思います。